

第4回大網白里市道の駅整備検討委員会 議事要旨

議 事 概 要	
名 称	第4回大網白里市道の駅整備検討委員会
年 月 日	令和6年8月29日(木) 13:30~14:30
場 所	保健文化センター 3階ホール
出 席 者	【委 員】 14名中13名出席(名簿順) 委員長 寺原 譲治 副委員長 加藤 文男 委 員 久我 一雄 委 員 山野辺 昌浩 委 員 星野 八千代 委 員 内山 信男 委 員 内山 充弘 委 員 安川 覚 委 員 加藤岡 美佐子 委 員 手塚 智仁 委 員 齋藤 壽彌 委 員 今井 健太 委 員 小西 一裕 【事務局】 副市長 堀江 和彦 企画政策課 課 長 飯高 謙一 副課長 久保 崇 班 長 齋藤 友康 副主査 鈴木 公治
欠 席 者	委 員 市東 剛
傍 聴 者	5名
議事等の概要	議 事 ①アンケート結果について ②道の駅の導入機能について

発言者	発言内容
寺原委員長 事務局 寺原委員長 事務局 寺原委員長	次第１ 開 会 ・事務局より会議成立の報告 次第２ 委員長あいさつ ・寺原委員長より挨拶 次第３ 議 事 議事① アンケート結果について ・事務局より資料１を用いて説明 《質疑応答・意見》 ・意見等なし 議事② 道の駅の導入機能について ・事務局より資料２を用いて説明 《質疑応答・意見》 資料１のアンケートの問１から問３までの回答方法は、選択肢を提示しマルしてもらったものか、それとも自由記述なのか。 全て自由記述となっております。 資料１のアンケート結果で、回答数が１,１１１件とあるが、配った母数に対して回収率は何％程度になっているか 資料１の１ページ、２.アンケート実施方法にあります①ホームページで公開し web 回答いただいた分については、回収という概念がないかと思います。 ②市内公共施設でアンケート用紙を配布した分についても、各施設に用紙を配架したのみで把握はしておりません。 ③市内保育所・幼稚園の保護者、④市内中学校・高校の学生にアンケート用紙を配布した分についても、配布数は分かるものの、他の方法で配布した分の回答と分けて集計できないことから、回収率は把握しておりません。 これまでの情報源などから、市民側の意見は非常に大きく反映

A 委員	されていると思われる。それに対して、外から来る方（観光客）の意見は反映しづらいものと感じている。外から見た大網白里市の魅力を発信できるようになっていけばよろしいのではないか。 アンケートでかなりの的確な指摘があった。このアンケートで出てきた様々な機能を道の駅にまとめていく作業については、道の駅の経営に携わる方が真剣になって検討しないと、かなり苦戦する道の駅ができるのではないか。皆様も今まで様々な道の駅を見てきた中で、「道の駅はこういうもんだ」という刷り込みがある。その刷り込みによってまとめていくと、どこにでもある当たり前な道の駅となってしまう。ここで生きていくと覚悟を決めた人が検討することで、「この所は特徴付けよう」とか「この所はちょっと削ろうか」といった具体的な作業に繋がるのではないか。できれば早めに、「誰が道の駅をまわしていくのか」がないと、とんでもない道の駅ができるような気がしている。 アンケートの中で否定的な意見も多く出ているが、これはかなり建設的な否定意見と思われる。道の駅の事業は、市が貸店舗業を始めるものと、市が道の駅を使って地域活性化のために行うものがある。他の道の駅の事例をみると、採算性と地域活性化は、なかなかイコールで繋がらない。採算性を重視して、大手企業に投げてしまうようなケースも増えているが、道の駅はそのために事業が進んできた訳ではないと思う。採算性と公共性の両立は非常に難しいということを理解したうえで、道の駅で行うべき公共事業、地域活性化の仕組みを明確にさせていく作業が必要である。 道の駅では、人材育成や地元でノウハウを蓄えていく仕組みも非常に重要である。スターバックスの誘致について意見があるが、それに近いものは努力すれば到達できる。ただし、そのようなものを地元で作り込んでいく、経営していく能力も道の駅に求めているのではないか。道の駅において事業を行う時のハードルは、とても低い。道の駅を通じて様々な挑戦ができるとしたら、その挑戦を支えるための組織づくり（仕組みづくり）も同時に進めていかれてはどうかと思う。
寺原委員長	ご提言いただいた中でも重要なのは、運営主体をどうするか、という質問かと思われる。直営でも委託でも長短いろいろある。検討委員会で検討していきながら、市がどのように考えるのかもがあるので、すぐに答えが出るものではない。また、お金の話は、導入する機能をどうするか、近隣の類似施設と比較して採算がと

事務局	れるものかどうか等もあり、まだ先になるかのではないか。 運営主体の話は、道の駅整備検討委員会の中で、おいおい議題になるということによろしいか。 第2回の検討委員会の中でスケジュールをお示しさせていただいたように、今後、立地計画や運営方法についてお話させていただく機会を設ける予定です。 また、アンケートの否定的なご意見の中に、立地場所に関するものがございましたが、立地場所につきましては現状未定であり、今後、数カ所の候補地を選定した中で決めていくこととなります。この点については、前の計画の候補地が念頭にあり、アンケート結果に反映されているのではないかと考えております。
寺原委員長	資料1のアンケート結果では、問1～3において「道の駅は不要」など全否定的な意見が一定程度ある。問4でも④のとおり合計100近くの否定的な意見がある。 ここだけの資料では難しい所もあるが、これらについてどう思われるか。
B委員	採算が一番大事であり、お金のことから入りたいと思っている。検討の進め方として、近隣の道の駅について調査した中で、売上規模に応じた採算性を示すなど、具体的なお金のやり取りについて検討していくことが大事ではないかと思う。 検討委員会は検討委員会で開催し、もう一つ運営する人の組織を立ち上げれば、活発な意見も出るのではないか。
寺原委員長	売上と採算の話があった方が話が深まるということだが、何をやるのか決めないと採算などの話まで至らない。また、この資料だけではその点まで把握しがたいところはあるが、確かに金額が分かった方が話がしやすい。 例えば、資料2にある休憩機能や情報発信機能は、採算がとれるものではない。地域連携機能（農産物直売所や特産品の販売等）は、普通の民間ベースでは儲かりはしないと思われるが、相当程度民間委託されており、今までの事例もある。この形態なども、検討委員会での検討対象になると思われる。
事務局	数字については、必ず提示していかなければならないと思っており、市民目線から見ても必要となってくる部分と認識しており

B 委員	ます。他の道の駅の売上など確認できる内容について提示し、なおかつ収支予測などもお示ししていきたいと考えております。 ただし、道の駅には、トイレや情報発信機能のように儲ける部分ではない機能も存在し、行政で負担せざるをえない費用だと考えております。そのような部分も含めて皆様に情報提供していきたいと考えております。 お金のことは、たたき台をつくり、行政が持つ部分、個人の店が持つ部分などを検討委員会の中で検討したらいかがか。 道の駅は、住民の皆様、観光に来られた方の利便性も大事だが、道の駅に出店される方の利益も必要である。多少の利益がないと誰も出店してくれない。道の駅で行政がやること、店がやることなどの棲み分けは大変難しいものがあり、検討委員会の中で改めて話合ってはどうか。また、運営の話は検討委員会の中だけでなく、若い人などやる気のある方が集まり、検討した方がある程度参考になるのではないか。 検討の結果、道の駅はやらない、という結論に至る可能性もあるが、この検討委員会では絶対やります、という話をつくり、前に進む道筋ができれば大変うれしく思う。
寺原委員長	お金の話は難しく、まだそこに行くまで議論が煮詰まっていな いと思われるが、おいおい考えなければならない問題である。 《採決》 ・道の駅の導入機能（施設イメージ）について、総員賛成により承認。 次第 4 その他 次回、第 5 回大網白里市道の駅整備検討委員会の日程等について事務局より連絡 ・日程：令和 6 年 10 月頃（予定） ・内容：立地計画、運営方法 等 次第 5 閉会 -以上-